

第 6 回春日山原始林保全計画検討委員会 指 摘 事 項 対 応 表

(1) 春日山原始林保全事業の進捗状況について

No	指摘事項		対応
	主な内容	詳細	
1	ナラ枯れ被害による枯死木の取扱	<ul style="list-style-type: none"> ・林冠層に達している個体がナラ枯れ被害を受け枯死した場合、被害の拡大を防止するために伐採し原始林外へ持ち出す必要があるのではないか。(松井委員) ・原始林内のツクバネガシがアタックされて枯れている。カシ類の中でもツクバネガシは感受性が高く、被害に遭いやすいのではないかとみている。(前迫委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラ枯れ被害調査を実施。 ・議事(1)で、資料3を用い、調査結果を報告するとともに、枯死木の取扱の考え方についてご意見を伺いたい。
2	ナラ枯れ対策の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良奥山ドライブウェイと春日山周遊道路の入口で、ナラ枯れについてのパンフレットを配ってはどうか。(佐野委員) ・ナラ枯れ対策を周知するため、被害の現状と対策を説明できる看板を若草山の駐車場等に設置すべきである。(川瀬委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラ枯れ対策についての情報発信の充実に向けて、その方法を引き続き検討、実施する。

(2) 春日山原始林保全計画について

No	指摘事項		対応
	主な内容	詳細	
1	実証実験の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験は、シカの影響を排除すれば森林がどのように遷移するのかを確認することが目的と考えるので、ナギ、ナンキンハゼは別事業として検討すべきと考える。(松井委員) ・実証実験は、照葉樹林を戻す方法を実証することが目的であると考えているので、ナギ、ナンキンハゼも実証実験のなかで、その取扱を検討すべきである。(田中委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事(2)で、資料4を用い、保全計画(案)における、早急に実施すべきと考える保全事業と、実証実験の再整理についてご意見を伺いたい。
2	保全対策の詳細の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぐ会は、保全事業の担い手としてナギの数量調整について検討を始めているが、考え方や具体的なやり方について、意見を伺う機会がないので作って頂きたい。(川瀬委員) ・検討委員会ですどこまでやるのか、県がど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナギの数量調整、天然記念物奈良のシカとの共生等、保全対策の詳細については、必要に応じて別途意見交換会を設けるなど、その詳細について引き続き検討する。

		<p>こまでサポートするのか、どういう方向に保全していくのか、つなぐ会にどこに力を貸して頂くのかをもう少し明確にする必要がある。(前迫委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生保護柵の面積について、シカとの関係を踏まえた将来的な見通しももう少し議論して盛り込む必要がある。(本間オブザーバー) ・保全対策の詳細について意見交換を行う機会を別途設け、その結果を踏まえ検討委員会として方針を定めていきたい。(山倉副委員長) 	
3	保全計画の修正	<ul style="list-style-type: none"> ・「春日山原始林の価値はなんなのか」をまず明確にしておく必要がある。(本間オブザーバー) ・昔からシカ、ナギもいて、1000年以上続いてきた春日山原始林を保全することが、現在難しくなっているのか、基本的な事を県民に伝わりやすくしなくてはいけない。(田中委員) ・管理体制をどうするのかという事もぜひ書いて頂けたらと思う。(松井委員) ・9つの保全方策の中で、照葉樹林として残す事に意義があるという事を明確にすべきである。(前迫委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘事項を踏まえ、保全計画の内容を修正し、参考資料2に反映させた。